DOKKYO SAITAMA HIGH SCHOOL
獨協埼玉高等学校
No. 12
2010.8.10

同窓会会報

発行：獨協埼玉高等学校同窓会　発行人：玉山 栄一
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316
☎048-977-5441　FAX048-977-2031
e-mail：dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp
URL　http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/

進路指導部より
～今春、入試結果から～

獨協埼玉も開校から30年が経過し、卒業生の子女が中学や高校を受験するようにもなりました。そうすると卒業生の視点に、保護者の視点が加わることになります。保護者の視点としては、やはり高校卒業後の進路が気になるところでしょう。そこで今春の大学入試結果をお知らせすると共に、本校の進路指導部がどのような方向性を持っているのかをお伝えすることになりました。

かつて200名を超える3年生が併設校である獨協大学へ推薦で進学していた時期があります。ところが併設校との関係も変わり、現行の単願推薦制度は残っているものの、第一志望の生徒は「獨協クラス」に在籍し高校で卒論を書きながら大学へ進学していきます。それに加えて3年前からは全学部ではないものの、併願推薦制度が導入されて今春も24名の生徒が利用していました。こうした中、全卒業生に占める獨協大学への推薦進学者は17%にとどまっています。

一方で他大受験者は増加すると同時に、それなりの実績も上げつつあります。今春の国公立大学合格者は現浪併せて23名でした。首都圏最難関私立の早稲田大学に現役で19名、慶應義塾大学に現役で6名、上智大学に現役で14名、東京理科大学に現役で25名、その下のいわゆるMARCH（明治・青山学院・立教・中央・法政）クラスには現役生だけで120名を数えています。

ただ誤解をしていただきたくないのは、受験に特化した他の受験進学校のように本校の姿が様変わりしたわけではないということです。開校以来、本校の持っていたゆったりとした空気はそのままに、主体的な進路意識の高揚を促し、生徒一人ひとりの自己実現をサポートすべく、進路指導部がプログラムを組んで、実施しています。そんな中にあって、ここ数年、受験意識も高まり、しかもこれまでよりもチャレンジ精神旺盛な流れができあがり、今春の大学合格者数に結びついたのです。

進路指導部主任　小平　茂（5期生）

■2010年春 大学合格実績（併設大学内部推薦を除く）

	合計	現役		合計	現役
一橋大学	1	1	学習院大学	19	12
筑波大学	4	4	明治大学	39	35
千葉大学	2	2	青山学院大学	12	8
埼玉大学	2	2	立教大学	44	34
静岡大学	1	1	中央大学	13	12
名古屋市立大学	1	1	法政大学	34	30
東京外国語大学	1	1	日本大学	39	34
東京農工大学	1	1	東洋大学	35	27
首都大学東京	1	1	芝浦工業大学	29	26
茨城大学	1	1	東京電機大学	9	8
宇都宮大学	2	1	東京農業大学	6	6
埼玉県立大学	2	2	東邦大学	7	7
早稲田大学	20	19	北里大学	4	4
慶應義塾大学	8	6	昭和大学	2	1
上智大学	16	14	東京薬科大学	3	3
東京理科大学	29	25	明治薬科大学	2	2

「2010年　大学入試結果から」

28期生　学年主任　堀口　千秋

今年度の大学入試結果が、獨協埼玉開校以来の快挙であったことはどこかでお聞き及びかと思います。その理由は様々な部署から分析がなされていますが、今回は敢えてあまり表面に出ない、卒業生達の精神面についてお話したいと思います。かつて本校は獨協大学の併設校というイメージが強く、6割もの生徒が獨協大学に推薦入学していた時代もありました。現在でも指定校推薦や一般推薦、AOなどを受け、一日でも早く、受験の重圧から逃れようとする風潮が残っています。そのため、おそらくチャレンジを続ければ早慶上理やGMARCHクラスに受かる生徒達がこぞって指定校推薦に流れていたのです。しかも、保護者が推薦を希望しているケースが少なくありませんでしたし、担任もそこまで強くバックアップする体制が整っていませんでした。ですから、国公立や私立難関校を目指す文I、理Iは本人や保護者の考えが揺らぐことの無いように、「国公立・早慶の一般推薦以外は推薦を放棄する」という条件でクラス選択をしてもらいました。また、高校1年次から、模試のための課題を出したり、担任にはデータの細かいチェックをお願いして可能性が少しでもある生徒には最後までぶれないようなアドバイスをしてもらいました。夏休みなどは1日の勉強時間が12時間を越えて、計画表が真っ赤に染まっていた生徒もかなりいました。

もちろん、生徒のたゆまぬ努力と担任や教科担当の先生方の支えが重要であったことはいうまでもありませんが、前述のように、学校として受験体制を作っていくことと、一人ひとりの精神的な強さを育てるという両輪がうまく機能した結果だと考えています。

失敗の先には成功がある

同窓会長　玉山　栄一

いつも同窓会活動にご協力いただきありがとうございます。

私もとうとう45歳（笑）。それなりにいろんな経験を積んできたつもりです。もちろん失敗も沢山してきました。人間は失敗するものです。でも今想えば、失敗を沢山した事が人間の幅を大きくさせてくれたと思っています。しかし、失敗してから何もしない、考えないのではそれだけの人間で終わってしまう。

成功している人と何が違うか、それは〝気付く〟という事。失敗って後でわかることが圧倒的です。何で失敗したか気付けば、その先の人生を有意義に過ごせるし、気付かなければ無駄に終わる。失敗をどうバネにして成功に変えるかは自分次第だと思っています。

また、このIT時代においても、やっぱり「ビジネスの基本は人間関係」。私は人間の富の8割は人脈だと思っています。何かに失敗したときに、手を差し伸べてくれる人がいるかいないかで、運命が分かれるのではないでしょうか。運命とは「命を運ぶ」と書きます。まさしく、失敗した時にいろんな方々に一度死んだ命を運んで（助けて）いただければ、こんな感謝はありません。

最初に45歳と言ったのは、40代半ばまでは多少リスクを冒し、たとえ失敗しても復活できる目は十分あると確信しています。『チャレンジしての失敗を恐れるな。何もしないことを恐れろ。』カッコ悪くても笑われても、まだまだチャレンジをしていきたいと思っています。

皆さんも、勇気を持っていろんな事にチャレンジして下さいね。大丈夫ですよ、獨協埼玉で育ちましたから。

獨協埼玉はオアシス

校長　柳町　道廣

今年も梅雨空の到来とともに本校同窓会例会の日がやってきました。今、今年の教育実習生の実習録を点検しながら、ふと手を休めてこの原稿を書いています。そういえば、今年の実習生は本校中学一期生の面々が中心メンバーでしたね。すっかり大人になって教壇に立っている姿を見ていると、どうしても入学当時のあどけない顔が重なってきてしまい、いささか複雑な感傷気分に浸ってしまうのを禁じ得ませんでした。こうして若者はあっという間にたくましく一人前になっていく一方で、その代償として我々は間違いなく着実に老いていくのです。しかし、皆さんが学んだ獨協埼玉のコンセプトはこれからも時代の変遷を超えて永遠に不滅です。どうぞ安心して下さい。本校は、例えば皆さんが人生の岐路に立ったときなどにいつでも訪れて、初心を取り戻すためのオアシスとしての場であり続けます。

最後に、今年から新たに取り組んでいる試みの一つを紹介しておきます。それは、環境教育です。中学棟南壁面を覆うオカワカメによる緑化運動。もう一つはビオトープの拡張を進めてホタル舞う学校にする。近い将来、多くの同窓生と現役生によるホタル狩りができるようにがんばるゾ～！

教頭就任のご挨拶

教頭　百合　寿紀

このたび4月1日付で獨協埼玉中学校及び獨協埼玉高等学校の教頭に任命されました。非力ではありますが、校長の指導のもと、諸先生方と連携しつつ獨協埼玉の発展に少しでも貢献できるよう努力していく所存です。

獨協埼玉に奉職して30年が経ちますが、一貫して英語ができる日本人の育成に努力してまいりました。平成3年からはコロンビア大学修士課程で英語教育の理論と応用を学ぶ機会をいただき、文法訳読法を超える指導などを模索し実践を積み重ねております。平成11年から今年3月まで教務主任を命ぜられ、獨協埼玉中学校の成績評価規定の整備などに努め、高校では習熟度別少人数授業を導入するなど、主に制度面から獨協の発展のために微力を尽くしてまいりました。

現在は教頭の仕事内容を理解すべく努力しているところです。今後は、中学・高校ともに安心・安全な学校作りにいっそう努めるとともに、自ら考え自ら判断できる国際人の育成を模索していきたいと考えております。今後ともご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

第十三回同窓会総会・懇親会開催

梅雨特有の湿度の高さといよいよ夏を感じさせる暑さの中、6月26日（土）に第13回同窓会・懇親会が、本校小ホールで開催されました。冒頭での玉山会長の挨拶では、「地域貢献」について話があり、獨協埼玉の地元「せんげん台」に同窓会として何か役に立てないかとの提案があり、今年度の「せんげん台西祭」に参加し、地域の方々との交流を持ちつつ、できることを探りたいとの説明がありました。

続いて21年度の報告と22年度の計画が議案に上がりました。小久保議長の議事進行のもと、これら議案は承認されました。さらに同窓会事務局からの新たな提案として「会費未納者に対する経過措置」の説明がありました。1期生～17期生までの卒業生のなかで会費未納の方々には毎年会報を送付しながら「会費納入のお願い」を同封させていただいておりますが、現状として会報の発送が予算を圧迫し続けております。そこで会費未納の方々への会報発送の経過措置を平成25年までとし、以降は段階的に発送を終了させていただく旨の説明がなされ、了承されました。

年に一度の総会・懇親会。常連の方も、久しく母校から遠のいてしまった方も、受験期のお子様を持つ方も、卒業期を越えた楽しいひと時を過ごしてみませんか？来年も開催されますので、奮ってご参加ください。

■決算・予算報告

平成21年度決算書 H21年4月1日～H22年3月31日

収入の部		支出の部	
★前年度繰越金	20,444,122	★次年度繰越金	21,710,302
★終身会費卒業生	3,290,000	★総会費	564,176
★終身会費既卒生	180,000	★会報費	1,295,632
★利息	3,123	★幹事会費	30,000
★懇親会収入	97,000	★慶弔費（花束）	42,410
		★事務費	1,000
		★卒業証書フォルダー	370,725
合計	24,014,245	合計	24,014,245

平成22年度予算（案）

収入の部		支出の部	
★29期生 終身会費	3,300,000	★総会費	564,176
★H21年度より繰越金	21,710,302	★会報費	1,295,632
★預金利息	2,500	★幹事会費	30,000
★懇親会収入	60,000	★慶弔費（花束）	42,410
		★卒業アルバム保管用	13,800
		★企画費	500,000
		★卒業証書入れ	400,000
		★予備費	22,226,784
合計	25,072,802	合計	25,072,802

「部活動紹介」

なつかしきあの頃 第11回

演劇部

獨協埼玉の演劇部は、同好会として設立されてから28年の歴史があります。設立以来一貫して古田先生のご指導のもと活動を続けて、多いときには30人以上の部員が在籍して、現在も3年生を含めて23名が元気に活動しています。ソングリーディングには敵わないまでも、「文化部の中の運動部」と言われるくらい身体訓練を大事にしています。柔軟体操はもちろん、発声練習やダンスで身体を意識して演技できるように練習、というよりは日々「訓練」をしています。

スタッフは音響・照明のようにハードを扱う部門だけでなく演出や制作などソフトの面でも充実していて、卒業生の中には演劇界で活躍している方々もいます。

14期生～16期生が中心となった時代には、3年連続で埼玉県代表として関東大会に出場しました。うち2回は優秀賞（2位）を獲得して、全国大会まであと一歩で涙をのみました。

芸術なので明確に勝ち負けはつけられませんが、たくさんの人々が笑い、泣き、心動かされる芸居作りを目指しています。この先も合宿などを通してたくさんの卒業生に支えられながら、素晴らしい獨協埼玉演劇部を創っていきたいと考えています。

（演劇部OB・竹内　友洋（13期））

退職教員

退職に際して思うこと

根岸　隆

この三月をもって定年退職といたしました。現在は非常勤講師として勤務させてもらっています。

あっという間の二十九年間でした。初めて見た職員室はあの大きな部屋の片隅を一列だけ使っていました。私は開校二年目に参りましたので私たちが入って二列目となりました。教科指導、生徒指導、部活など一つ一つ話し合って新しいものを作り上げてゆく日々でした。教員、生徒ともに多士済々というか、個性豊かで毎日緊張して出勤したものです。

当初、英語が好きで、英語を教えることが好きで教員になった私は生活面では生徒諸君に規範意識を植え付けようと教条主義的であったかも知れません。当時の私を知る卒業生は怖い先生だったという印象を持っているようです。実は私自身も生徒と先生方と、そして自分自身と日々闘っていたのですよ。常に教員としてのあるべき姿を模索し、生徒としてあるべき姿を要求しながら…。それは結構苦しいものでした。

私が生徒一人一人を好きになり、不十分ながらもそれぞれの個性を理解しながら話ができるようになるにはだいぶ時間がかかりました。一人一人に関心を持ち、よく観察しているとさまざまなことが見えてきて、可愛い＝可愛そう＝好き、となるようです。なんか恋人とあまり変わりません。ここ数年、特に最後の担任となった高校一年四組の生徒たちにはそのように強く実感しました。

私は人にも、物事にも常に誠実であることを旨としてきました。単純な性格なので嘘がつけないのです。これからもそうやって生きてゆくことになるでしょう。

この数年間は病気がちで欠勤により諸先生、当時の在校生諸君に大きな迷惑をかけたことお詫びします。また、その節頂いた励ましなど心より感謝しております。また、三月の退職の時に手紙をくれた卒業生、花束や手紙をもって来校してくれた卒業生。皆さんのねぎらいの言葉はとてもうれしかったです。この場を借りてお礼申し上げます。

取り敢えずこれからの数年間はこれまで思うようにできなかった読書、旅行などに十分な時間を割ければと思います。

長い間本当に有難うございました。

定年にあたって

岩田　充泰

定年退職は時が来れば必ず訪れる人生の重要なキーポイントです。「定年以後」が大切であることはよく聞きますが、私は定年二日後に脳梗塞で入院してしまいました。毎日、ベッドの上で六十五年間のこれまでの生活のことを振り返ってみました。

高校三年生の時、兄から「慶応大学を受ける場合は『福翁自伝』を読んでおいた方がいいぞ」と言われました。早速、『福翁自伝』を毎日、少しずつ読んでみました。この本は福沢諭吉先生の幼少の頃からのことを思いつくまま飾り気なく書かれた自伝ですが、闊達なユーモアと機知が横溢し、小説よりもおもしろく感じられ、また、近代日本の成立が生き生きと描かれていました。面接試験のときに愛読書について聞かれ、「『福翁自伝』です」と答えたことが懐かしく思い出されます。「一番印象に残ったところは何ですか」と聞かれ、「江戸に出た翌年、蘭学を実地に試そうと開港間もない横浜へ出かけましたが、そこで出会ったのは、その蘭語が全く外国人たちに通用しないという衝撃的な事実でした。今、世界で通用する言葉は英語である、ということを身を持って福沢諭吉先生は知ったのです。蘭学に傾けたこれまでの苦労、年月を思うと落胆は強かったものの、江戸に戻るとすぐに気分を入れ替え、英語でなければ西洋や世界のことを学ぶ事ができないと確信し、蘭学対訳の辞書を片手に独学で英語を学び始めたところです。」と答えました。時代を読み取る感性は、やがて「独立自尊」という思想を生むのです。

六年前に訪れた大分県の中津は福沢諭吉先生が幼少年期夢を育んだ土地です。この町には「福沢諭吉を英語で読む会」と「福沢先生の著作を読む会」という学習会があります。福沢先生の根本の精神を理解するために開かれているそうです。

『福翁自伝』に盛られたたくさんの訓えは、私にあらゆるものへの好奇心や本質追求の動機を与えてくれました。

五十三年間に渡って英語を学んできましたが、英語は奥深いものがあり究められません。至極の境地に達するまでにはまだまだ先が長いです。定年前に中学一年生たちに「英語を好きになって楽しんでね」と言えたことが何よりでした。

私の宝物

藤田　敏雄

思えば獨協埼玉に二十八年間、前任校（神奈川県川崎市立東橘中学校・市立住吉中学校・市立今井中学校）と併せて三十八年間長いようであっという間の教員生活でした。

獨協埼玉高校に赴任の年は、開校三年目、男女共学のスタートの年で　着任された先生がとても多かったことを覚えています。着任してみますと、獨協埼玉高校はイメージ通りの学校で、校訓である開拓・創造・信愛の教育方針がしっかりしていました。獨協埼玉で過ごした年月は、色々なことがあり、あっという間に過ぎ去った二十八年間でした。

私のたくさんの思い出の中でも一番は部活動です。（保健体育科ですから　笑）

部活動を通して、技能の向上はもちろんですが、その時代の社会情勢や生徒の実態を考え、生徒達に次の七つの目標を常々要求してきました。

①自己の可能性の追求②目配り・気配り・思いやり③あいさつ・言葉づかいをしっかり④美しい姿⑤見失わない⑥感謝の気持ちを言動に⑦心理・気持ち

スポーツに打ち込むときにいつも心に浮かぶ思いがある。それは、自分の中にはいつも「強い自分」と「弱い自分」の二人の自分がいるということです。

「私は出来る。自分を信じて挑戦していこう」と思っている強い自分と「私は駄目、出来ない、どうしよう。」といつも迷っている弱い自分、どちらも本当の自分なのですが　どちらになるかを決めるのは、他でもない自分自身なのです。山登りに例えると、山の中腹で立ち止まっているときの心境と似ています。見上げれば頂上、見下ろせば山の麓。このまま苦しいけれど登山を続けて頂上で充実感を味わうか、あきらめて下山をしていくか。どちらかを選ぶかでたどり着く先ははっきりと別れてきます。苦しい場面・辛い場面立ったときこそ、「強い自分」になって前に進んでほしい

・・・それが、大切ではないかと言い続けてきました。

また部活動の指導を通して、「生き甲斐」についても考えることがありました。人はそれぞれ生活環境や置かれている状況が違うので、「生き甲斐」についての感じ方が違うと思われがちですが、よく考えてみると「生き甲斐」を感じるのはその人自身の気持ち次第なのではないかと思うのです。自分自身が一つのことに一生懸命に取り組み、その結果、良かった・うまくいった・楽しかったと感じ、さらにもっとやりたいとかもっと続けたいという気持ちが「生き甲斐」になるのだと思います。

私自身、この生き甲斐があったからこそ、長い教員生活が続けてこられたのだと思います。獨協埼玉での私の歩みと思い出が、私の宝物です。これからの人生でもまた違う生き甲斐を見つけて、ゆっくり・急がず・投げ出さず毎日を過ごして生きたと思っています。皆さんも生き甲斐を持って生活して下さい。

最後に、長い間　獨協埼玉中学・高等学校の生徒や保護者の皆様・卒業生の皆様、教職員の皆様には大変お世話になりました。心よりお礼申しあげます。今後の獨協埼玉中学校・高等学校のさらなる飛躍をお祈り申し上げます。

皆様お元気で・・・・・

ありがとうございました。

百合　久子

二十八年間勤務させていただいた獨協埼玉中学高等学校を退職して、三ヶ月が経ちました。今は主婦業をしています。三月末日までは、あわただしく仕事をし、身の回りの片つけ等もあって息つく暇もありませんでした。長い間お世話になった方々にきちんと感謝の気持ちをお伝えできなかったこともあるかと思います。この場を借りて厚く御礼申し上げます。皆様のおかげで、共働きをしながら、二十八年間を無事過ごすことができました。

獨協埼玉には、創立三年目に来ました。女子が入学してきて共学になるということで、女子教員の採用があったのです。当時、私は、大学の研究室に勤めていたのですが、教員免許状を四種類持っていて、一度も使わないのは心残

左から、藤田敏雄先生、岩田充泰先生、百合久子先生、根岸隆先生

りだったので、応募してみました。切っ掛けは、修士論文の副査の倉林先生からのお話でした。倉林先生が目白の獨協の木村先生とお知り合いだったようです。

台風一過の十月二十五日だったと思います。初めてせんげん台の駅に降りました。空が広くて、まだ今の駅ビルではなく、トタンぶきの駅舎でした。駅前の建物も少なくてめだっていたのは、喫茶店のサンミッシェル、富士銀行、パチンコの宇宙センターくらいだったでしょうか。もちろんマンション街もありませんでした。

「タクシーで来てください。」（今から思うとあの電話の声の主はおそらく、若き日の石井先生でしょう。）と言われていたのですが、タクシーはいませんでした。しばらく待っていると、車庫からタクシーが出てきました。今からは想像もできないような光景でした。やっとのことで到着した獨協は、青空に映えて、きれいな病院のような白亜の建物でした。「またここに来ることになるのかな。」試験を受けて帰る時、そんな気がしました。

縁あって採用され、新しい仕事にわくわくしながら、まるで教育実習生のように帰宅すると、すぐに机に向かって予習をする日々が続きました。

少し時が流れ、仕事にやや落ち着きが出てきたころのことです。自分でもまさか獨協に来て名字が変わろうとは予想だにしませんでした。親しくなったいきさつをよく聞かれました。偶然のなせる業とでもいいましょうか、獨協に来たのと同様、これがご縁というものだと思います。当時から今まで、共働きに理解を示して下さった方々に改めて御礼申し上げます。

実は、退職する前から仕事をやめたら、何をしようかずっと考えていました。未だに決まりません。分刻みの生活から開放されてホッとしているのと、やりたいことが多すぎてなにから手をつけていいのか自分にも分からないからです。この三ヶ月は、時間があると、手当たり次第に本ばかり読んでいました。今日は七月一日。新機一転し、徐々にできることからはじめようと思います。

時の流れは止むことがありません。獨協も変貌を遂げていくことでしょう。でも私の中では平成二十二年三月三十一日をもって止まっています。たくさんの思い出と、たくさんのご厚意を、本当にありがとうございました。獨協と皆様の前途に幸多かれと祈ります。

退職教員にむけて

3期の先生との思い出

講師　信博

百合先生・藤田先生・岩田先生、長年に渡って学校のためにご尽力され本当にお疲れ様でした。百合先生が学年主任になられたとき、始めて修学旅行が沖縄となりました。それまで長崎方面だったので、事前の平和学習も含めて先生が大変ご苦労されたのをよく思い出します（反対意見も根強くありました。飛行機事故が起きた場合この後学校運営ができなくなるなど、取り越し苦労的な意見も数多くありました）。でも実現できて本当に良かった。当時（15年以上前）は今ほど修学旅行生が多くなくお土産売り場の方から、「沖縄にまた来てね」といわれお菓子の詰め合わせを頂いたり、大変気を遣っていただきました。また現地のホテルに泊まったとき、水泳部のA君を中心とした一団が、夜中ホテルのプールへ飛び込もうとしたのを阻止するなどして、気は抜けませんでした。でも大変思い出に残る修学旅行でした。旅行と言えば高校1年の林間学校のとき、山登りの途中だと思います。過呼吸になったSさんにビニール袋を渡し、最後まで面倒を見た藤田先生。当時の山登りは本当にきつく、私などは自分の体を支えるのに精一杯でした。藤田先生はSさんの荷物を全部持ち、励ましながら献身的に下山しました。本当に大変だったと思います。ああいうときに、各人の本音が出るもんですね。岩田先生が本校の教員になられて1年目のとき、文化祭で、芸能人・スポーツ選手のウラ話を暴露する特別企画、「岩田屋」という独演会を行いました。抱腹絶倒きわどい話の連続で、今だったら絶対保護者から、クレームがつくようなものでした。現在は、教員もひたすら成果を求められて、一見無駄と思われるようなものは排除される傾向があります。失敗が許されない時代ですね。新しいことにチャレンジする、リスクをとるのが大変困難です。ある意味おもしろくないですね。また3期の先生方で集まって昔の武勇伝を語りたいと考えています。

根岸先生に贈るラブレター

「あなたに会えて、ほんとうによかった。嬉しくて嬉しくて、言葉にできない。」

三国　美智子

根岸先生、お元気ですか？退職なさってから、数ヶ月が過ぎました。お元気でしょうか？

きっと、趣味の世界で毎日、忙しい日々を過ごしている事でしょうね。と言いたいところですが、今でもほとんど毎日のように顔を合わせてお話をさせて頂いています。というのも、現在も非常勤講師として本校で教鞭を執られているからです。先生にとっては、何も変わらない日常のようですが、長い教員生活に一区切りをつけて新たなスタートを切った年になったことでしょう。それは、恐らく先生の内面では大きな変化だったと思います。しかし、さらりとうまく自然体でやり遂げていて、さすがです。私にはとても真似の出来ない凄いことだと思っています。

約27年間、ほとんどを根岸先生と学年を組み、一緒にお仕事をさせて頂きました。初めての担任ももちろん、根岸学年主任のもとでした。思い出は数知れず、とても語り尽くせません。新米担任教師、三国は先生の机の隣で心臓をバックン、バックンさせながら、緊張していました。（たぶん、誰も信じてくれないと思いますが！）最初は、とても大きな姿に圧倒され、きっと大きな声で怒鳴ることもあるんだろうなあ、と思い、大きな声で叱られたらどうしよう？？？と思っていたことを懐かしく思い出します。あれから、あっという間の27年間、根岸先生の大きな怒鳴り声は一度も聞いたことはありません。

私も今年から、新たな一歩を踏み出しました。中学一年生の学年主任として新任の先生を含め、とても若い学年集団で試行錯誤しながら、なんとか一学期を無事に終えることができました。もがきながら、ふと思ったことは、私が今ここで、学年主任としてやっていられるのは先生が後ろから、枝分かれしている、間違った道を進まぬように「こっち、こっち！」と導いて下さったからに違いないと確信しています。言いたいことや叱り飛ばしたいことがきっとたくさんあったのではないかと思いますが、じっと我慢して育ててくださったことに、感謝しています。しかし、私は先生のように我慢強くない質なので、すぐに学年集団を叱ってしまいます。まだまだ、駄目ですねえ。心の中で反省し、我慢しなくちゃーとは思っているのですよ。でも、中一学年集団の先生方は一生懸命に文句一つ言わずについてきてくれています。有り難い事です。心配性の先生のことですから、きっと、ハラハラ、ドキドキしていることでしょうが、先生のやりたかった事を私なりに理解しているつもりです。頑張りますよ！

人生にとって、最も大切なことは、「素晴らしい師に出会うこと」です。私は、人との出会いに恵まれてきました。その中で、根岸先生という師に出会えたことは私の人生で最良の出来事です。これからも見守っていて下さい。そしてよろしくお願いします！

同窓生の皆さん、ごめんなさい。これは根岸先生へのラブレターです。

お知らせ

昨年十二月、本校売店でお世話になった宮崎三枝子さんが退職されました。売店を利用する生徒達にとって宮崎さんは、獨協のお母さんのような存在であったと思います。

その明るく親しみやすいお人柄と、あたたかい笑顔に、たくさんの生徒たちが日頃の悩みを打ち明け、日々の出来事をよく話していました。教員とは違った立場から生徒達を見守り、支えて下さった宮崎さんを慕い、卒業生がよく売店に顔を出し、退職される日にも多くの卒業生が別れを惜しむために足を運んでいた姿が本当に印象的でした。

宮崎さんにはこれからもお時間の許す限り獨協に遊びに来て頂けたらうれしいです。長い間、獨協生の心の支えとなって下さいましたことに改めて深く感謝申し上げます。

まほろばの会 26期 報告

雪もちらつく2010年2月13日土曜日、獨協埼玉の在校生が懐かしい「マラソン大会」のトン汁を食べていた頃、「26期生 まほろばの会」を食堂で開催致しました。あいにくの天気の中、多くの卒業生ならびに先生方にご参加いただき、とても有意義な会となりましたことを、ここにご報告させて頂きます。

当日の26期生の騒ぎ方は、在校時となんらかわりないものでした。先生を囲んで話したり、久しぶりに会う友人と近況を報告しあったり。ただどこか大人になりつつある雰囲気で、先生方のお話に真剣に耳を傾ける姿も見られました。

この企画が無事開催できましたのは、先生がたの手助けと、この一日のために必死に努力した友人達のおかげです。この場をおかりしまして、参加して頂いた先生方、ならびに26期生の皆様、そして運営スタッフの皆様にお礼を申し上げます。来年の「27期生まほろばの会」へと、このバトンはつなげさせていただきます。

26期生幹事
武内 保香

まほろばの会 27期 告知

2009年3月に獨協埼玉高等学校を卒業した27期生のみなさん。27期生は平成23年に成人の集いとして「まほろばの会」を行います。たくさんの先生方に協力していただき、一昨年、昨年同様に学校で開催できることになりました。

卒業して2年弱が経ち、20歳の節目となる年になりました。なかなか高校に顔を出せていない人もいると思います。久しぶりに少し大人になった姿で先生たちに会いに来ませんか?

27期生だけの獨協埼玉で行う同窓会はこのあと40歳の「ホームカミングデー」までありません。今回のこの会が27期生全体で集まれる数少ないチャンスです!

楽しい時間を一緒に過ごしたみんなとたくさんの思い出が残る学校でまた楽しい時間を過ごしましょう!

詳細は後日お知らせしますが2月を予定しています。

多くの方の参加をお待ちしています!

27期 同窓会幹事

高橋 知美　市原 泉岐
榎本 祐希　荻野 克眞
安蒜 慶恭　尾堤 智
池田 翔　木本 恒平

蛙鳴祭 タイムカプセル

9月18日(土) 中庭でOPEN!

こんにちは、19、20、21期生のみなさん!10年前の蛙鳴祭実行委員長、大山です。
10年前、私たちがまだ高校生だった頃、中庭にタイムカプセルを埋めたのは覚えていますか?
そのタイムカプセルをついに開けるときがやってきました!
当時は10年後の自分たちは想像もできず、とても大人だと思っていましたが、こうして10年経ってみると、あんまり変わってないように感じます。しかし中学棟ができたり、第2体育館ができたり、獨協埼玉では10年のときの経過を感じる出来事もあったようです。卒業以来学校に足を運んでない人もいると思いますのが、この機会に来てみてはいかがでしょうか。
一人でも多くのみなさんに来ていただくのを元委員一同お待ちしております。
大 山 みどり(20期生)

手紙は
中学棟3階
選択教室A
でお渡しします。
19日(日)も
同じ場所で
手紙は配ります!

•教育実習を終えて•

「実習生であって、卒業生ではない」自分にそう言い聞かせながら、私の3週間は始まりました。何かひとつでも生徒に伝えたいと願い始まった日々は、教えることよりも教わることの方が多い毎日でした。授業に関しては試行錯誤や反省をくり返す毎日でしたが、担当教諭であった竹内先生は常に大きな心で私を見守って下さり、私はさまざまな事にチャレンジすることが出来ました。そして、生徒と教師、ではなく、人と人、として向き合うことの大切さにも気づくことが出来ました。その他多くの先生方の応援と生徒たちの協力や笑顔に支えられ有意義な時間を過ごすことができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

渋谷 萌子

今回教育実習をさせて頂いて、私は教えることの面白さを学びました。授業の予習をしていた頃、ただ文章のあらすじを追うだけになっていました。しかし国語という教科で私が教えることはテストで出来るためだけではなく、心を養う材料としての役割を果たす文章で何かを伝えるためだということを先生方に教えて頂き、そこから心に響く文章の言葉の微妙な使われ方に気がついてもらうことが国語という教科だと気が付きました。

この3週間の実習で生徒たちに少しでも文章を読むことの楽しさを知ってもらえたら、と思います。

村田 愛美

まず、教育実習生として受け入れてくれた獨協埼玉に感謝している。3週間という短い期間だったが、教育現場の厳しさ・楽しさを肌で感じることが出来た。何よりも、生徒の成長を自分の目で見られる素晴らしさを実感できた。それは、本気で生徒と向かい合えたからだと思っている。大変で辛いことも多々あったが、この実習で一層教員を志望する気持ちが高まった。本当の先生になったら、実習で関わった教員・生徒にしっかりと報告したい。ありがとうございました。

鄭 立舜

大好きな獨協埼玉で教育実習生として過ごした3週間は、とても楽しく充実していました。

私は中学2年4組にお世話になりました。初めは距離があった生徒たちが、笑顔であいさつをしてくれたり、話しに来てくれたり、積極的に質問をしてくれたりしたときの嬉しさは忘れられません。最後の日は実習が終わってしまうことをとても寂しく感じるほどでした。

この3週間はとても貴重な時間であり、私に獨協埼玉の良さを更に強く教えてくれた気がします。先生方、生徒のみなさん本当にありがとうございました。

高橋 睦美

INFORMATION

第31回 蛙鳴祭

9月18日(土)・19日(日)
10:00〜15:00

今年度は文化祭のテーマは設けていませんが、例年通り中学・高校全クラスが企画した催し物や展示の発表、体育館では吹奏楽部、コーラス部などの演奏があります。ぜひ獨協埼玉の文化祭にお越し下さい!

入試ミニ説明会		
中学	9月18日(土)	13:00〜14:30
高校	9月19日(日)	13:00〜14:30

体育祭

今年もお揃いのカラーTシャツに身を包み、汗と涙を流す高校体育祭の季節がやってきます。中学体育祭も自由にご覧いただくことができますので、お時間がありましたら、是非お越しください。

高校	9月30日(木)	10:00〜
中学	10月23日(土)	10:00〜

入試

中学入試

◆入試　第一回　1月12日(水)
　　第二回　1月18日(火)
　　第三回　2月　2日(水)
※第三回入試は本校と東京会場(飯田橋)で入試を実施します。
◆学校説明会
　第一回　9月26日(日)10:00〜
　第二回　10月24日(日)10:00〜
　第三回　11月28日(日)10:00〜
　第四回　12月11日(土)14:00〜
◆募集　男女160名

高校入試

◆入試　第一回　1月22日(土)
　　第二回　1月23日(日)
◆学校説明会
　第一回　9月26日(日)14:00〜
　第二回　10月24日(日)14:00〜
　第三回　11月28日(日)14:00〜
◆募集　男女160名
※詳細は本校HPでご確認ください。

同窓会役員人事紹介 (括弧内数字は卒業期)

理事

◆会長　玉山　栄一(1)
◆副会長　永島　健次(3)
　酒井　直樹(7)
◆会計　竹内　友洋(13)
　梨本　佳世(19)
◆会計監査　友野　行晴(1)
　宗像さやか(19)

事務局

◆事務局長　小平　茂(5)
◆事務局総務　髙田　晶子(10)

幹事

片桐　岳信(1)　安保佳代子(23)
杉崎　良樹(1)　岡部沙友里(23)
高橋　洋司(1)　森　歩美(23)
増田　浩一(2)　須藤　啓(24)
小野　岳二(2)　井上　大史(25)
桑島　優紀(3)　金本　幸美(25)
奥泉　裕子(4)　髙橋　睦美(25)
橋本　行正(4)　根本　明子(25)
森脇　淳(5)　吉田　美栗(26)
都築　能男(5)　山田敬二郎(26)
小久保博文(6)　大石さやか(26)
瀬戸てるみ(8)　正岡　正樹(26)
井上佐友子(8)　武内　保香(26)
川島　信也(9)　岡野沙也花(26)
成瀬　博文(10)　夢川　彩子(26)
岡崎　陽子(10)　勝股　修平(26)
金久保佳代(12)　安森　慶恭(27)
櫻井　広仁(13)　池田　翔(27)
小黒　清貴(16)　市原　泉岐(27)
永井　穂(16)　榎本　祐希(27)
深瀬　和之(16)　荻野　克眞(27)
仲田　英起(17)　尾堤　智(27)
佐藤　允(17)　木本　恒平(27)
関　淳一郎(18)　髙橋　知美(27)
坂本　育美(18)　尾崎　仁(29)
植原　浩実(18)　榊原　啓太(29)
村上　恵理(19)　鈴木　遥(29)
有光　眞織(20)　棚村　萌実(29)
山口　麻里(20)　中島　里佳(29)
大山みどり(20)　中島　理沙(29)
五十嵐　玄(21)　中村　朱里(29)
丸川　怜子(21)　中村　里菜(29)
加藤　友紀(22)　古橋　香織(29)
村上まどか(22)　松永　沙季(29)
佐藤　唯(22)　脇野健太郎(29)
髙崎　栗月(22)

同窓会からのお願い

①同窓会運営に関するご意見がありましたら、上記の理事・事務局・幹事までご連絡ください。またできる限り、総会に出席していただき、その場で意見を寄せていただければ幸いです。よろしくお願いします。
②住所などで変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。
③同窓会は、同窓会活動を遂行する上で取得させていただいた皆様の個人情報を適切に保護し、会報、同窓会が主催協力する行事等の開催案内の送付、学校で保有する卒業生データベースの補完のための情報提供に、これらの情報を利用します。
④同窓会名簿の更新につきましては、個人情報保護の観点から、具体的な更新日時を決定しておりません。あらかじめご了承ください。
※なお、情報の提供に同意されない方は、事務局まで届け出ください。
※最近、同窓会を名乗り、電話で個人情報を聞き出そうとしている団体があるようです。本同窓会では、電話での問い合わせは一切しておりませんので、ご注意下さい。

会費納入のお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に従い卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費(1万円)を納入していただきたく、納入票を同封させていただきました。同窓会の運営資金となります。趣旨をご理解の上、ご協力よろしくお願いいたします。
※既にお振込みいただいた方には振込用紙は封入されておりません。

獨協埼玉高校同窓会連絡先
〒343-0037　埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316　☎048-977-5441　FAX048-977-2031
e-mail:dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp　URL http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/

第6期生 ホームカミングデー 報告

ホームカミングデーを終えて

6期生　小久保博史

「40歳になったら学校へいこう！」というスローガンで1期生から始まった「ホームカミングデー」、ついに自分の代の番になりました。

6期の幹事は自分だけなので、近所にいる数人の同級生に声かけをしてお手伝いを頂く事になりました。中でも「おやぴん」こと宮下さんには本当に沢山お世話になりました！彼女がいたからこそ無事に終了する事が出来たといっても過言ではありません。（当日の1次会に参加をして頂いた皆さんに郵送でお配りしたデータＣＤは宮下さんの力作です！）

当日は各先生方にもご出席を頂き、非常に和やかな雰囲気の中、当初の予定より多くの皆さんに参加頂けて本当に良かったと思いました。当日の急な協力依頼にも関わらず快く引き受けて頂いた多くの方々にも幾重にも感謝します。このホームカミングデーがきっかけになり、皆の足が独協埼玉に向かう一助になれば幸いです。

40歳になったら学校へ行こう！

～7期生ホームカミングデーのお知らせ～

今年40歳になる（もうすでになっている）7期生の皆さん、ホームカミングデーがやってきました！

激動の昭和から平成に変わるその年に高校を卒業して早22年が経ちました。あれから学校もさまざまなものが変わりました（制服・ジャージ・体育館がもう一つできた・・・など）

2度目の成人式となる40歳の年に母校を訪ねてみませんか？当日は懐かしい話など大いに盛り上がりたいと思っています。皆様のご参加をお待ちしております。

日　時●2010年10月9日（土）
一次会●14：00～
　　獨協埼玉中学高等学校中学棟
　　小ホール
二次会●19：00～
　　せんげん台駅周辺のお店で懇親会
　　（詳細は後日同窓会ホームページにて）

連 絡 先：友成（山田）朋恵（3年5組）
アドレス：dottama7@gmail.com
実行委員：酒井　直樹（3年2組）　山口　修司（3年4組）
　　友成（山田）朋恵（3年5組）　岩上　知之（3年10組）
　　油井　一浩（3年10組）

お知らせ

本校5代目校長を務める柳町道廣先生が、『13歳からの心を強くする子育て　～自ら考え、判断する力を与えたい～』（かんき出版）を出版されました。

この著書のまえがきには、「13歳から18歳くらいまでの思春期は、肉体的にも精神的にも不安定な『揺れ動く世代』であると同時に、あらゆる可能性の枝を広げる時期でもあり、大人の対処の仕方で、生き方のさまざまな選択肢をもつという可能性を大きくも、小さくもしてしまうものです。大人がどのような立ち位置で、どのように向き合うべきかを、教師としての経験と、ひとりの父親としての体験を踏まえながらまとめたのが本書である」と書かれています。柳町先生に教わった卒業生はもちろんのこと、親となった卒業生に、是非、読んでいただきたい1冊です。

また、この本の印税は、本校後援会からの特別寄付金とともに、本校の応急奨学金に全額寄付され、家計が急変した生徒の一助となります。多くの方に読んでいただければ幸いです。